

氏名	Ondiba Hesborn Andole
学位の種類	博士(環境学)
学位記番号	博甲第9498号
学位授与年月日	令和2年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	生命環境科学研究科

学位論文題目

The Role of Rural Women as Vectors of Entrepreneurship and Environment Management for Sustainable Development of Rural Areas: A Case Study of Kakamega County, Kenya

(地域の持続的な開発のための環境管理と起業の介在としての地方女性が果たす役割: ケニアのカカメガ郡の事例から)

主査	筑波大学准教授	Ph.D.	松井 健一
副査	筑波大学教授	Ph.D.	渡邊 和男
副査	筑波大学准教授	工学博士	雷 中方
副査	筑波大学准教授	博士(理学)	廣田 充

## 論文の要旨

審査対象論文で著者のOndiba Hesborn Andole氏は、アフリカの遠隔地に暮らす女性が、起業を通して地域の環境保全や持続的開発に貢献する可能性を、デスクトップ及び現地での詳細な調査で検討し、考察・提案を行った。調査手法には、主に、現地でのフィールドワークとアンケート調査の重回帰分析等を用いた。また、著者の母親がカカメガ郡政府の行政官であったこともあり、この人的ネットワークを利用し、少人数間の地域有志とのインタビューも行った。調査に関しては、先行研究を調査し、事前に聞き取り項目を特定した。第1章では、サブサハラ・アフリカの男性優位な社会にあって、女性がどのような立場にあるのかを明らかにしている。特に、著者の研究対象地であるカカメガ郡では、電気や水道、ガスなどの普及率が低い。また、収入も低いため、男性は都市に出稼ぎに出ることが多い。そのため、女性は日々水汲みや薪集め、家庭菜園、育児などを通して、近隣の環境と密接に関わりながら生活をしており、周辺環境の変化に大きな影響を受ける。第2章では、こうした社会的・環境的な制約の中で、カカメガ郡の女性たちが、どのように生活向上のための努力を行なっているかを明らかにした。ケニアには、女性たちが集い、様々な互助的活動を行う「チャマ」と呼ばれる組織が、草の根的に広がっている。著者によると、カカメガ郡では、この組織の女性間の結束が国内でも非常に強いことが分かった。例えば、チャマは、家庭菜園で収穫した野菜等を市場で売際の情報交換の促進等を担っている。また、結婚した女性や若い女性は、抵当対象になる家屋や土地を所有することが困難なため、起業に必要なローンを受けることができない。金融機関も、男性への融資を中心に考えている。そのため、チャマは、新たに起業しようとする女性へのアドバイスを行っている。また、法人としてチャマがメンバー

の事業のために融資を受ける方策を取ることもあり、女性ビジネスを支援している。第3章では、こうした組織に参加して販売活動を行う女性が、どのような社会的要因で起業をしたのかを、研究対象地で明らかにした。その結果、起業の職種から見ると、伝統的に女性が担ってきた家庭菜園やケータリングに関するビジネスについて、夫の同意があることが重要な要素であることが分かった。また、家計を支援することもさることながら、女性間のネットワーク作りや社会的なステータス獲得も非常に重要な要因であることが分かった。第4章では、女性の起業に関する選択について明らかにした。その結果、半数以上の女性が農作物を販売する業種に関わり、自宅から歩いて通うことができる距離にキオスクなどを設置していることが分かった。大学を卒業した若手の起業家の間では、小規模であっても、ソーシャルメディアやアプリをうまく利用したビジネスを展開していることも分かった。第5章では、チャマの活動の中で、森林保全に係る活動に焦点をあて、こうした活動がメンバーの女性にどのような保全意識を扶植しているのかを明らかにした。カカメガ郡には、生物多様性が豊かなカカメガ・フォレストがある。国際自然保護連合 (IUCN) など国際的環境保全組織も関心を置いている地域である。近隣の女性は、ここで薬用植物を収穫・栽培し、販売している。また、キッチンに使う薪の量を減らすため、燃料効率の高い窯の販売も行っている。こうした環境ビジネスに参加している女性へのアンケートの結果、参加者の間で、環境保全の活動がビジネスと強く結びついているという認識が強くあることが分かった。一般的に流布している意見として、地方の貧しい女性は、生計を立てるために環境保全を意識している余裕がないというものがあるが、この調査結果は、それとは相反するものである。また、貧しいアフリカの女性も、単に収入を増やすためだけに起業するのではなく、社会的な立場の向上やネットワーク作りなど、いくつかの要因が重なっていることも明らかになった。今後の課題として、著者は、さらに規模を広げたビジネスを女性が展開するためには、金融機関との融資に関する問題を改善していく必要性を主張している。また、環境保全に係る意思決定の過程で、女性のさらなる参加を確保するためには、チャマの存在の認識を高めることも指摘している。

## 審 査 の 要 旨

以上の結果から、この審査対象論文の学術的意義は、発展途上国における女性の環境保全管理に関するエンパワメントの可能性を起業・ビジネスとリンクさせて述べた点である。ビジネスと環境保全は相互補完する可能性があり、貧困層にも有効な持続可能な対策となることが言える。また、女性のエンパワメントには、地元根付いた互助組織の法的・政策的支援が有効であることも、ジェンダー研究などにおいて高い貢献度を見ることができる。

令和2年1月15日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもとに論文の審査及び最終試験を行い、本論文について著者に説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（環境学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものとして認める。